

「市街地におけるミヤマガラスの飛来数調査」

調査報告書

令和7年(2025年)3月

日本野鳥の会熊本県支部

1. 調査の目的

市街地におけるミヤマガラス被害軽減対策として、忌避音声を用いた追払いを実施するにあたって、その効果を検証するために対策実施前後のミヤマガラスの飛来数等を調査するもの。

2. 調査の概要

(1) はじめに

冬鳥であるミヤマガラスは、熊本には10月半ば頃に渡来し、翌年3月頃に大陸の繁殖地へ渡去する。熊本市では夜間に集まって眠る「集団ねぐら」を形成し、昼間の採餌場である郊外の田園地帯との間を毎日行き来している。従来は、ねぐらを熊本市郊外の山林に作るが多かったが、数年前から、熊本市の中心部に集まるようになった。今回、中心市街地でねぐらを形成するミヤマガラスを対象として個体数の調査を行うこととした。

(2) 調査地点

①「花畑ねぐら」(熊本市中央区花畑町の花畑公園とその周辺)

(3) 調査期間

2024年11月22日～2025年3月31日

(調査期間内に花畑ねぐらで2回の羽数調査を行う)

(4) 調査方法

11月下旬から12月上旬にかけて事前調査を行い、「花畑ねぐら」に集まるミヤマガラスの採餌場所、飛来コース、就峙状況等を観察した。飛来コース、就峙状況の調査はミヤマガラスが飛来し始める、16時頃から暗くなってねぐら入りする、18時頃まで行った。

- ① 図1で示した、熊本市南部の耕作地で数百羽単位のミヤマガラスの集団が観察された。
- ② 各採餌場所から夕方向かうねぐらは、採餌場所 A が谷尾崎付近ねぐらまたは一部が田崎市場付近。採餌場所 B、C、D が花畑ねぐら。採餌場所 E、F が乗越ヶ丘ねぐらと推定された。
- ③ 「花畑ねぐら」への飛来コースで羽数が多いのは、採餌場所 C から、南熊本駅を經由して代継橋を通るコースで、事前調査でも数千羽は確認された。次が採餌場所 B、D からの飛来コースであった。
- ④ これ以外の西、北、北東からは、飛来が無かった。
- ⑤ 「花畑ねぐら」へ飛来したミヤマガラスは、繁華街のビルの屋上で就峙までの時間を過ごすことが多かった。また、熊本市役所南側を通過して熊本城内に入り、樹木にとまって休憩する姿も見られた。
- ⑥ 最終的には、花畑公園内の樹木(主に樹齢6～700年ほどのクスの巨木)と公園周辺の街路樹(主にイチヨウ)や電線、電車通りと国道3号線の間広がる繁華街の街路樹や電線でかなりの数が観察された。繁華街のビルの屋上で夜すぐすミヤマガラスがいる可能性もあるが、暗くて確認することは出来なかった。

以上の事前調査結果を踏まえて、表3に示した St.1～St.5 の5調査地点を設定し、早朝ねぐらから餌場へ向かう群れをカウントする調査方法を選択した。

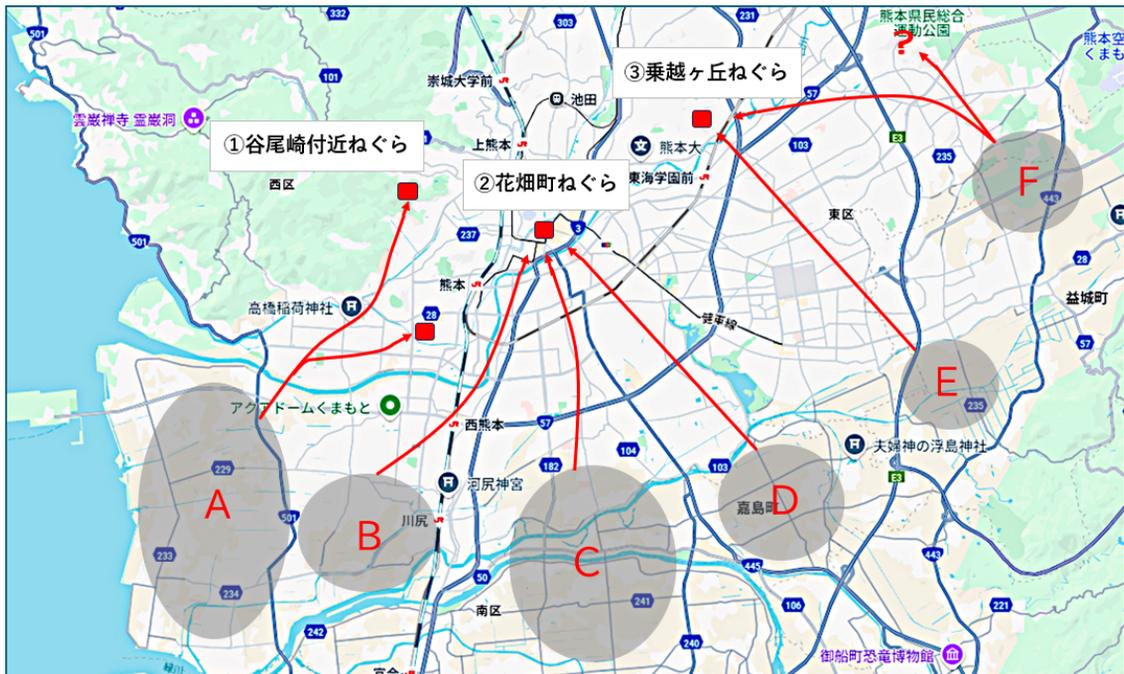


図1:ミヤマガラス事前調査 熊本市南部から東部の採餌場所とねぐらへの飛来コース

3. 調査実施状況と調査結果

(1) 調査日時

1回目および2回目の調査を以下の日時で行った。

表1:ミヤマガラス調査日時表

調査回	調査日	調査時間帯	日出時刻
1回目	2024年12月14日(土)	6:00～7:40	7時11分
2回目	2025年1月25日(土)	6:30～8:00	7時16分

(2) 気象状況

調査時の気象条件は以下のとおり。

表2:ミヤマガラス調査時の気象条件

対象	調査日	天気	気温	湿度	風速
1回目	2024年12月14日(土)	曇り	3.1℃	78%	3m
2回目	2025年1月25日(土)	晴れ	-2.5℃	85%	1m

(3) 調査地点及び調査員の数

調査地点は、「花畑ねぐら」の南南西～東方向をカバーする5地点を St.1～St.5 と設定し、それぞれ必要人員を配置した。(表3)

朝6時半から7時半頃まで、ねぐらを飛び立って餌場に向かう群れを各調査地点よりカウントした。(図2～図3)

表3:ミヤマガラス調査地点

対象	調査地点	調査範囲	調査員
1回目	St.1 長六橋1	長六橋下流	2名
	St.2 長六橋2	長六橋上流、代継橋まで	2名
	St.3 代継橋	代継橋上流、銀座橋まで	1名
	St.4 銀座橋	銀座橋上流、大甲橋まで	1名
	St.5 大甲橋	大甲橋上流	1名
2回目	St.1 長六橋1	長六橋下流	2名
	St.2 長六橋2	長六橋上流、代継橋まで	2名
	St.3 代継橋	代継橋上流、銀座橋まで	1名
	St.4 銀座橋	銀座橋上流、大甲橋まで	1名
	St.5 大甲橋	大甲橋上流	1名

(4) 第1回目調査結果

①ミヤマガラスの調査地点別個体数

表4:ミヤマガラス 調査地点別個体数(1回目)

対象	調査日	調査地点	羽数
1回目	2024年12月14日(土)	St.1 長六橋1	2,491
		St.2 長六橋2	4,645
		St.3 代継橋	2,409
		St.4 銀座橋	984
		St.5 大甲橋	38
			10,567

表5:ミヤマガラス 時系列個体数(1回目) 日の出、7時11分

時刻	長六橋 1	長六橋 2	代継橋	銀座橋	大甲橋	合計
6:20	0	1	6	3	2	12
6:30	0	27	23	5	1	56
6:35	0	39	17	13	0	69
6:40	4	144	32	93	2	275
6:45	293	103	70	51	12	529
6:50	1,011	1,529	90	78	0	2,708
6:55	602	1,254	470	21	0	2,347
7:00	200	697	704	160	0	1,761
7:05	213	441	262	205	7	1,128
7:10	123	274	292	220	9	918
7:15	45	78	201	112	5	441
7:20	0	28	194	8	0	230
7:25	0	30	14	12	0	56
7:30	0	0	34	3	0	37
合計	2,491	4,645	2,409	984	38	10,567

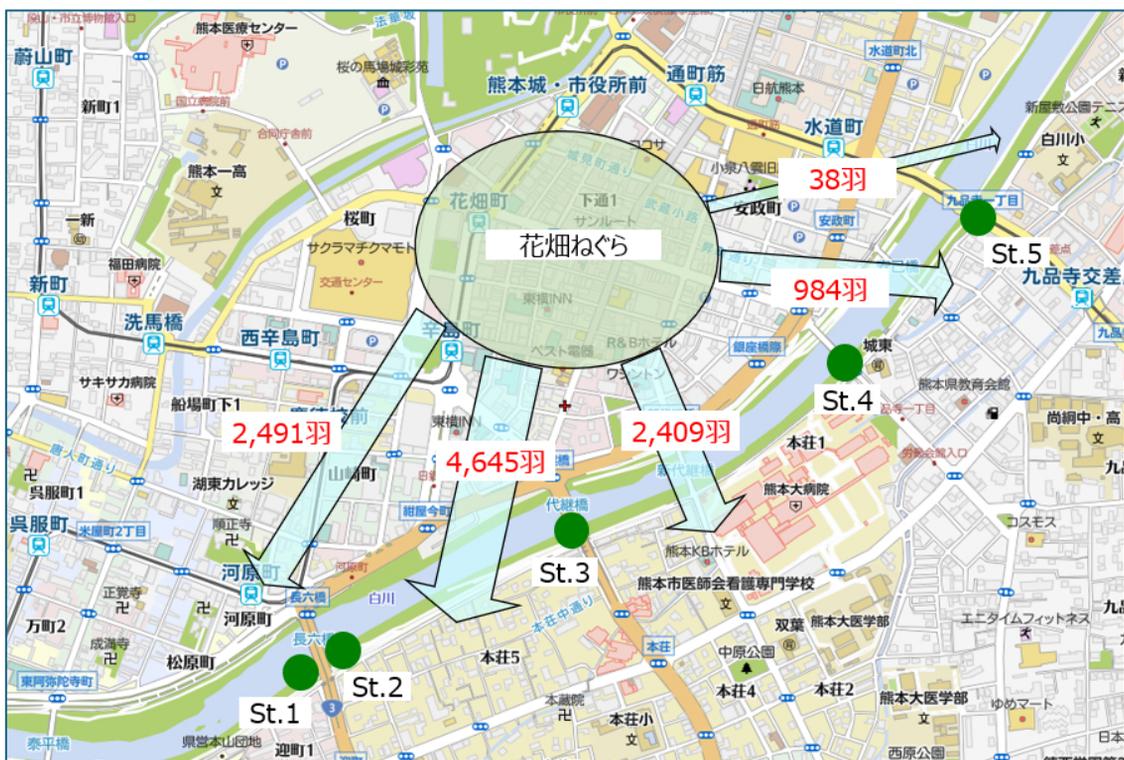


図2:ミヤマガラス 1回目調査「花畑ねぐら」の調査地点とねぐら立ちの方向別羽数

(5) 第2回目調査結果

①ミヤマガラスの調査地点別個体数

表6:ミヤマガラス 調査地点別個体数(2回目)

対象	調査日	調査地点	羽数
2回目	2025年1月25日(土)	St.1 長六橋1	69
		St.2 長六橋2	2,106
		St.3 代継橋	1,393
		St.4 銀座橋	295
		St.5 大甲橋	19
			3,882

表7:ミヤマガラス 時系列個体数(2回目) 日の出、7時16分

時刻	長六橋1	長六橋2	代継橋	銀座橋	大甲橋	合計
6:20	0	0	3	0	0	3
6:30	0	0	1	0	0	1
6:35	0	0	0	0	0	0
6:40	0	16	22	9	7	54
6:45	0	44	30	11	3	88
6:50	0	55	41	39	2	137
6:55	0	27	33	16	0	76
7:00	2	54	4	4	0	64
7:05	23	445	248	5	0	721
7:10	21	598	355	40	3	1,017
7:15	8	570	330	23	0	931
7:20	0	92	158	71	1	322
7:25	2	141	91	67	0	301
7:30	9	26	54	4	0	93
7:35	3	26	20	2	3	54
7:40	1	12	3	4	0	20
合計	69	2,106	1,393	295	19	3,882

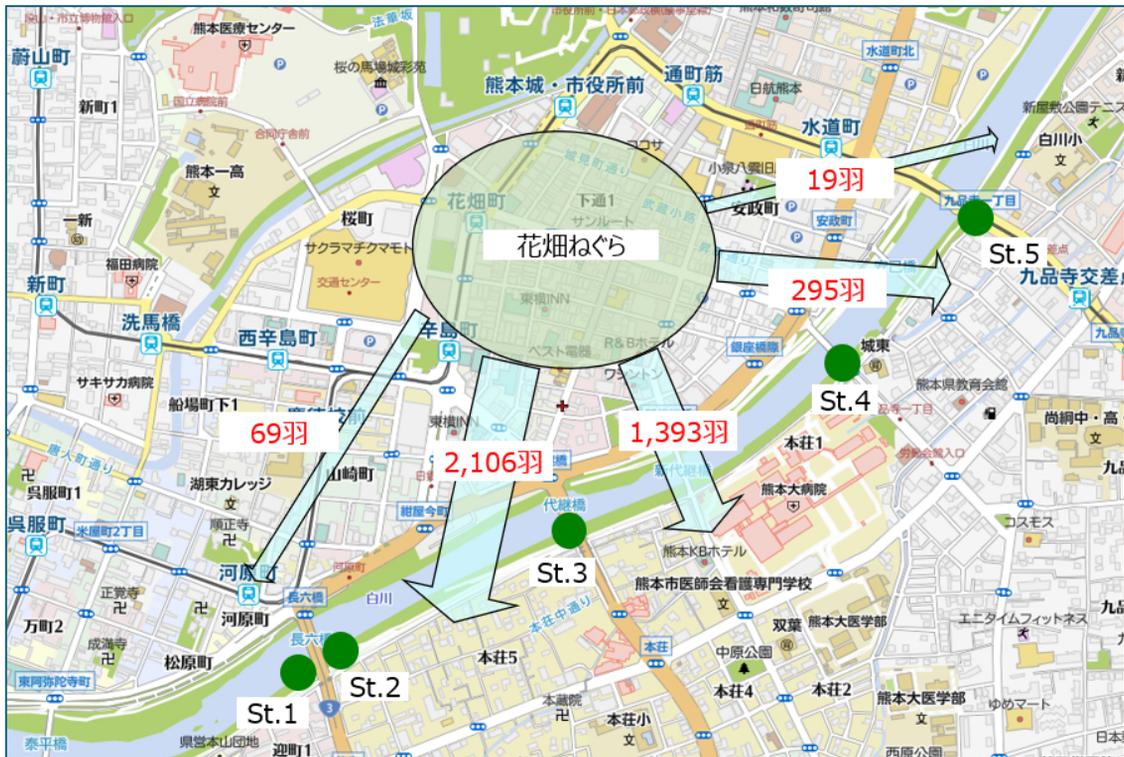


図3:ミヤマガラス 2回目調査「花畑ねぐら」の調査地点とねぐら立ちの方向別羽数

表8:ミヤマガラス 調査地点別、1回目と2回目の羽数比率

	St. 1	St. 2	St. 3	St. 4	St. 5	合計
第1回目調査	2,491	4,645	2,409	984	38	10,567
第2回目調査	69	2,106	1,393	295	19	3,882
比率	3%	45%	58%	30%	50%	37%

(6) 種類別の羽数

「花畑ねぐら」はミヤマガラス以外に、同じ冬鳥のコクマルガラス、留鳥のハシブトガラス、ハシボソガラス、が利用する。早朝ねぐらから飛び立っている状態でのカウントでは、これらを正確に判別することは困難である。コクマルガラス、ハシブトガラス、ハシボソガラスの羽数を推定し、ミヤマガラスの羽数を算出した。

表9:種類別の個体数

対象	調査日	(A) 総数	(B) コクマルガラス (推定)	(C) ハシブト・ハシボソ (推定)	(D) ミヤマガラス羽数 D=A-B-C
1回目	2024年12月14日(土)	10,567	210	700	9,657
2回目	2025年1月25日(土)	3,882	80	700	3,102

※餌場での調査等からコクマルガラスはミヤマガラスの群れの中に2%含まれていると仮定。

※ハシブトガラス・ハシボソガラスは、花畑公園で夏場に観察された 700 羽がそのままミヤマガラスの群れに混じっていると仮定した。

4. まとめ

「花畑ねぐら」を飛び立ったミヤマガラスは、第1回目の調査が 10,567 羽、第2回目の調査が 3,882 羽であった。第2回目は 6,000 羽ほど少なくなっており、コース別では表8に示した通り St.1 でカウントした南南西へ向かう群れの減少が大きい。これは昨年も見られた現象であるが、今年はその傾向が更に強まったようだ。このコースの先には、図1の採餌場所 B があるが、ここからは熊本市西区の谷尾崎付近ねぐらも近く、こちらへの移動があったことが想像される。

第2回目調査の後、夕方から夜間にかけて、花畑町一帯でミヤマガラスを観察したが、花畑公園とそれに面する電車通りの街路樹ではミヤマガラスがほとんど見られなかった。一方、電車通り東側の繁華街でも地上から見て目に付く場所にはとまっておらず、約4000羽が分散してビルの屋上などで休んでいると思われる。本来自然の樹木や竹林にねぐらを作る習性のあるミヤマガラスが、今後も継続して人工物を利用するのか大変興味深い。

越冬期の途中で花畑ねぐらの西側半分から去ったグループがいることは、来期以降この部分がねぐらとして利用されなくなる可能性を示唆している。10月頃と予想される来期の渡来時に、ミヤマガラスが例年通り花畑ねぐらの西側にも来るかどうか注目したい。